

地域協働の防災訓練2021

“地域の担い手づくり”

【活動内容の特徴】

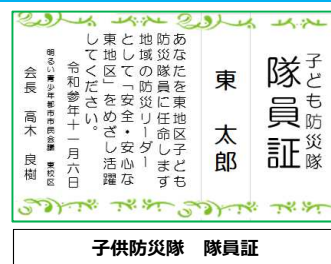
地域の担い手づくり

小学校（491名）・中学校（742名）そして地域が協働して防災時の対応を学ぶ活動を2015年から実施。今期はコロナ禍の中で感染症対策を施行しながら避難所簡易受付の設営・簡易トイレ組立などの4体験ブースを実施

【アピールしたい防災活動の成果】

子供たちが地域のために自立的に関わっている

例年、小学5・6年で防災6ブースをスタンプラリーで体験し**子供防災士**（私設・過去5年で400名余）として認定され、彼らが中学2年時にその小学校で今度は指導する立場として小学生をリードしています



子供防災隊 隊員証

【活動内容の詳細】

中学生の先輩が小学生の後輩を教える

例年は**6体験ブース**（簡易トイレ組立・毛布による搬送訓練・東日本大震災の体験を聞く・炊き出し訓練・消火訓練・避難梯子による退避訓練等々）実施

今期は新たに中学生による**簡易避難所受付訓練**を行い、様々な問題点を洗い出した設営準備から避難者の受付時の並ぶ時のソーシャルディスタンスの取り方など自分たちで**工夫し運営**。地域住民は模擬避難者として要支援者や弱者も演じて参加

地域では各種団体ごとに担当持ち場のブースの準備や生徒へのサポートを担当

地域づくりとは**“人のつながりをつくり 知人や友人を増やす活動である”**という考えのもとで、世代を超えて参加できる場づくりに励んでいます



簡易トイレ組立訓練



毛布を使った搬送訓練



東日本大震災 体験から学ぶ



避難所簡易受付訓練

【活動成果】

<実施者から見た効果>

学校の垣根が低くなり、PTA等の学校と関りのないものでもコミュニケーションが取れるようになった。地域の活動にも様々な課題があるが、長い視点での人づくり・かかわりづくりの起点ができています

<参加者等から見た効果>

中学生が参加し活動を見て、**本当に中学生が持っている力はすごい**。模擬避難者からの聞き取りに対し、とっさの判断、早い行動を目の当たりにして感心することが多かった。生徒たちに**自分たちの地域であるとの意識**が芽生えた